

【保護者の皆様へ：必ず読みましょう！】

# 日本脳炎の予防接種について

この予防接種のご案内は、3歳になるお子さん(1期初回2回)、1期初回2回接種を完了しておおむね1年経過するお子さん、9歳になるお子さん(2期)へ送られてきます。

■対象年齢内は公費負担(無料)で受けられます。対象年齢を過ぎると任意接種(有料)となります。



## ●接種対象者と接種回数

日本脳炎ワクチン (4回接種)	接種間隔(通常の接種方法)	標準的な 接種年齢	対象年齢
1期	初回2回	6~28日の間隔をあけて2回接種	3歳 生後6か月~7歳6か月未満
	追加1回	1期初回(2回)終了後、おおむね1年後に1回接種	
2期	1回	9歳	9歳~13歳未満

## ●日本脳炎ってどんな病気？症状は？

日本脳炎は、ヒトからヒトへの感染はなく、ブタなどの動物の体内でウイルスが増殖した後、そのブタを刺した蚊などがヒトを刺すことによって感染します。症状が出る場合、6~16日間の潜伏期間の後、数日間の高熱、頭痛、嘔吐などが現れ、意識障害や、けいれん等の中枢神経系の障害を引き起こす病気で、後遺症を残すことや死に至ることもあります。日本脳炎ウイルスに感染しても、症状が現れずに経過する場合がほとんどですが、およそ1,000人に1人が日本脳炎を発症し、発症した方の20%~40%が亡くなってしまおうといわれています。

## ●日本脳炎は、国内でどのくらい発生していますか？

近年、ワクチン接種の推進、媒介蚊に刺される機会の減少等により日本脳炎の発生は著しく減少し、年間数名程度の発生にとどまっています。しかし、日本脳炎ウイルスの増幅動物であるブタにおいては、まだ国内では、西日本を中心に、広い地域でウイルスに感染しているブタが多数存在しています。

## ●予防接種による副反応ってあるの？

主な副反応として、発熱、せき、鼻水、注射部位紅斑などが報告されており、接種3日後までにみられています。また、極めてまれではありますが、ショック、アナフィラキシー様症状、急性散在脳脊髄炎(ADEM)、脳症、けいれん、急性血小板減少性紫斑病などの重大な副反応がみられることがあります。

## ●予防接種による健康被害救済制度について

定期の予防接種を受けたことが原因で、重い副反応がでて治療が必要になったり、生活に支障がでるような障害を残すなどの健康被害が生じた場合には、予防接種法に基づく補償(医療費・医療手当・障害児養育年金・障害年金・死亡一時金・葬祭料等)を受けることができます。

子どもは成長するまでにさまざまな病気にかかります。なかには重い症状になったり、感染する病気もあります。予防接種は、ワクチンを体内に接種して免疫をつくることにより、病気に対する抵抗力をつけ、病気を予防したり症状を軽くするためのものです。しかし人間の体は一人ひとり違うため体質によって副反応が出ることもあります。

予防接種についてよく理解し、かかりつけの先生に体調を診てもらい、納得して接種することが大切です。



■この通知はまだ接種が終わっていない方へご案内しています。母子手帳を確認して、すでに接種が完了している方は当課までご連絡ください。

【お問い合わせ：本部町役場 健康づくり推進課 0980-47-5602】